

オオウラギンヒョウモン の古い発生地を尋ねて

山本俊良

兵庫県下におけるオオウラギンヒョウモンは現在のところ県北西部の数ヶ所において、その生息が確認されている。しかしいずれの発生地においても個体数は急激に減少しつつある。採集に行っても確実に採れる所は少なくなって来ており新産地の開発に励みたいところである。

そんなとき昔、友人と私を含め、3人で本種を採集した事を思い出した。「確か私が2♂他の友人も1♂ずつを採ったはずだが……」と思い、取り急いで押入れの奥の標本箱を引っぱり出して、中味を物色した。「在った!!」確かにオオウラギンの♂である。

ラベルには採集地、三国山・採集年月日 S39—6—21と記してある。

三国山とは多可郡加美町鳥羽上の三国山へ通ずる、林道のことである。当時中学生であり行動範囲もせまい、私達にとってはもっぱらの好採集地のひとつとしていた所である。

「ヒョッとしたら今でも発生しているのでは……」と思い1981年9月のある日、同地を訪れてみることにした。

午前10時頃、鳥羽上(とりまかみ)に着いた。一本の林道の入口の脇に車を停車させた。頭の中には当時のイメージしかなかった私には、この林道が昔、よく通ったそれである事が判らなかった。

「確かにこの辺に大きく広がった草原に沿って道があったが……」と思いながら車を降りて、あたりを見廻したが仲々それらしきものは見つからない。すると目の前に「三国山登山口」の看板が目に入った。

「そうか……これが、あの林道か……」

当時の草原は今や、二次林と化しススキやヒノキが生い茂っている。ここが草原であった頃は、アザミやオカトラノオに多くのヒョウモン類が来ていた所である。

早くも期待を半減させられながら林道奥へと足を運んだ。林道右側には川が流れ、その周りはスギやヒノキ林でこのあたりは昔と余り変わっていない様である。少し行くとヒノキ林がとぎれており川の向側が見渡せる。そこには最近植えられたのか、低いヒノキ林があり、下草も残っている。ヒョウモン類が飛んでいたの種を確かめたがオオウラギン♂とヒョウモンとクモ

ガタヒョウモンであった。

天気が曇り始めたので、本来の目的地へと急いだ。

やがて、林道に沿って流れる川が右から左側へと交差する所に差しかけた。いよいよオオウラギンが採れた草原のあたりへ出る。

「そろそろ、オオウラギンが採れた所へ差しかかるはずだが……」と思いながら歩いて行くと林道が川からだんだん遠ざかる様な気がする。こう配も急になって来ている。

それは昔のイメージとは全くちがった別の道を歩いている様であった。

一休みするため足を止め前方を見た、すると何んと川がせき止められダムが造られているのである。このためあたりの環境は大きく変り昔の草原どころか、ヒョウモンなどとても住み付きそうな感じではない。

「あの草原はどうなってしまったのだろうか……」よく判らない、しかしダムを少し過ぎたところに橋がある、これより手前であった事は確かで、この橋にスミナガシが時々飛んで来ていたのでよく覚えている。橋より上はすっかりヒノキやスギが茂っており全くダメである。

仕方なく林道を下る事にした。

「下の少し残された草地のヒョウモン類をもう一度捜してみよう……」と先ほどの場所まで下り、近くへ飛んで来るヒョウモンを1頭1頭ネットに入れ、種を確かめた。約10頭を確かめたが、メスグロ、ミドリ、ウラギン、クモガタ等ばかりである。全てを確かめた訳ではないが、オオウラギンは残念ながら認められなかった。

「やはりここには、オオウラギンは生息してないのだろうか」天気もいつの間にか、くもり空と変わって来た。ヒョウモン類も、もう飛ばなくなってしまっている。13時30分、成果はあげられないまま、林道を下った。この日は結局オオウラギンの生息は認める事が出来なかったが、必らずや、この附近一帯のどこかに生息地があるものと確信する。

なお、加美町ではこの他、千ヶ峯でもオオウラギンヒョウモンは採れており、現在でも少いながら発生していると思われる。又一度、個体数の確認等調査してみる必要がある旨、書き加えておきたい。

(S.55 : Toshiro Yamamoto 加古川市神野町)